

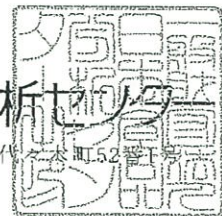
# 試験報告書

依頼者 小池化学株式会社

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検体 消毒剤(人体用)

表題 殺菌効果試験

2017 年(平成 29 年)07 月 14 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

## 殺菌効果試験

1 依頼者  
小池化学株式会社

2 検体  
消毒剤(人体用)

3 試験概要  
検体に試験菌液を接種後(以下「試験液」という。), 所定時間後に試験液中の生菌数を測定した。また, あらかじめ予備試験(中和条件の確認)を行い, 検体の影響を受けずに生菌数を測定できる条件を確認した。

4 試験結果  
結果を表-1, 試験条件を表-2に示した。  
なお, 試験液をSCDLP培地(腸炎ビブリオは3%塩化ナトリウム加SCDLP培地)で希釈することにより, 検体の影響を受けずに生菌数の測定ができることを予備試験(表-2 中和条件を参照)により確認した。

表-1 試験液の生菌数測定結果

試験菌	対 象	生菌数 (/mL)			
		開始時	15秒後	30秒後	60秒後
大腸菌 (O157:H7)	検 体	—	<10	<10	<10
	対 照	$5.2 \times 10^5$	—	—	$4.2 \times 10^5$
サルモネラ	検 体	—	<10	<10	<10
	対 照	$7.0 \times 10^5$	—	—	$6.3 \times 10^5$
黄色ブドウ球菌	検 体	—	<10	<10	<10
	対 照	$4.2 \times 10^5$	—	—	$4.7 \times 10^5$
MRSA	検 体	—	<10	<10	<10
	対 照	$3.7 \times 10^5$	—	—	$2.8 \times 10^5$
腸炎ビブリオ	検 体	—	<10	<10	<10
	対 照	$3.0 \times 10^5$	—	—	$2.8 \times 10^5$

<10：検出せず

保存温度：室温

対照：精製水(黄色ブドウ球菌及びMRSAは生理食塩水, 腸炎ビブリオは3%塩化ナトリウム溶液)

表-2 試験条件

試験菌液	試験菌	① <i>Escherichia coli</i> ATCC 43895 (大腸菌, 血清型O157:H7, ベロ毒素 I 及び II 型産生株) ② <i>Salmonella enterica</i> subsp. <i>enterica</i> NBRC 3313 (サルモネラ) ③ <i>Staphylococcus aureus</i> subsp. <i>aureus</i> NBRC 12732 (黄色ブドウ球菌) ④ <i>Staphylococcus aureus</i> IID 1677 (メチシリン耐性黄色ブドウ球菌: MRSA) ⑤ <i>Vibrio parahaemolyticus</i> RIMD 2210100 (腸炎ビブリオ)
	試験菌①及び②	前培養: 普通寒天培地 [栄研化学株式会社], 35 °C ± 1 °C, 18~24時間 菌液調製溶液: 精製水 菌数: 10 <sup>7</sup> ~10 <sup>8</sup> /mL
	試験菌③及び④	前培養: 普通寒天培地, 35 °C ± 1 °C, 18~24時間 菌液調製溶液: 生理食塩水 菌数: 10 <sup>7</sup> ~10 <sup>8</sup> /mL
	試験菌⑤	前培養: 3%塩化ナトリウム加普通寒天培地, 35 °C ± 1 °C, 18~24時間 菌液調製溶液: 3%塩化ナトリウム溶液 菌数: 10 <sup>7</sup> ~10 <sup>8</sup> /mL
試験液	検体10 mLに試験菌液0.1 mLを接種	
保存条件	15秒, 30秒, 60秒(室温)	
対照	試験菌①及び②: 精製水 試験菌③及び④: 生理食塩水 試験菌⑤: 3%塩化ナトリウム溶液	
中和条件	試験菌①~④: SCDLP培地 [日本製薬株式会社] で10倍希釈 試験菌⑤: 3%塩化ナトリウム加SCDLP培地で10倍希釈	
生菌数測定	試験菌①~④:	35 °C ± 1 °C, 2日間
	試験菌⑤:	35 °C ± 1 °C, 2日間

以 上